



農業を子どもたちが憧れるカッコいい職業に

水稲の直播じかまき栽培に取り組む
株式会社「かきのうえ」代表

立柳 慎光 さん

たちやなぎ・しんこう 45歳 中沢



昭和54年生まれ。妻、両親、長女、長男の6人家族。趣味はわかさぎ釣り、映画鑑賞。気心の知れた仲間との飲み会が楽しみ。尊敬する人は、自分の利益に関係無く仲間を大事にする父。好きな言葉は「小さなことからコツコツと」。計44.4%の農地で水稲のほか小麦、大豆、稲WCS(家畜用の飼料)の栽培に取り組む。

「これまでのやり方では、必要な労力も機械も一時期に集中してしまうので、作業時期をずらすことが出来るのは大きい」とメリットを話すのは、水稲の種を直接田んぼにまく「直播じかまき栽培」に取り組んでいる立柳慎光さん。今春は、従来からの移植栽培方法による作付け(26ハ)に加え、直播き栽培による作付けを10ハほど予定している。

両親の高齢化により、勤務先を退職し、平成25年から本格的に農業に従事している立柳さん。取り組んでみると、受託する農地の面積も広く、種まき、ハウスでの育苗、育った苗を田んぼに植えるこれまでの移植栽培では、作付け面積の拡大は難しいと感じた。

初めて直播き栽培に取り組んだのは、26年の春。ハウスでの苗作りが不要な直播き栽培を飼料用米で試してみると、収量に手こたえを感じた。失敗もあったが、その後も取り組みを続け、



機械を何度も確認し、直播き作業を進める立柳さん(上)と種まき後の状態(下)



令和2年の秋からは、岩手大学が開発した「初冬直播じかまき栽培」にも取り組んでいる。稲刈り後の田んぼに種もみをまき、翌年秋に収穫する方法で、今秋は6ハを予定。試験栽培では「移植と同等の収量確保が確認できた」と微笑む。今後、離農者が増加し、作付けを頼まれる農地が増えることを見据え、他にもいくつかの新しい取り組みを行っている。「作付け面積は増やしていますが、ハウスは増設しなくて済んでいます。効率化のため、技術を駆使しているんですよ」と、にこやかに思いを語る立柳さん。「農業ってカッコいいんだよ、と胸を張って言える職業にしたい」と、持続可能な農業に向けて来を描く。

【広告】

関節の痛み・変形、痺れ、生活習慣病

専門家が丁寧に診察いたします。

八幡平中央
整形外科・内科
クリニック

	月	火	水	木	金	土
	整	整	整	内	整	整内
8:45~11:30	●	●	●	●	●	●
13:45~17:30	●	●	—	●	●	—

整=整形外科 内=内科

八幡平市大更25-117-2 TEL.0195-76-2318

■編集後記

▽平笠小学校の入学式を取材しました。各校さんには取材訪問する機会も多く、顔を覚えていただいている先生方から「今年も広報？」と声をかけてもらいました。引き続き、広報はちまんたいを通して、子どもたちの笑顔を届けられるよう、取材していきたいと思えます。**智**
▽小林陵侑選手のジャンプ体験イベントを取材しました。初めてスキージャンプに挑戦した子どもたちが、小林選手に声を掛けてもらうと、笑顔で何度もジャンプ台に並んでいた姿が印象的でした。夢中で取り組んだ子どもたちの様子は来月号で紹介します。**千**

※広報はちまんたい5月9日号(No347)の印刷経費は1部90.58円、発行部数は9,688部です。経費の一部は広告料で賄われています。広告掲載については、株総合広告社(☎019-626-3370)まで。

